

Title	基督誕生の年に就て
Sub Title	
Author	
Publisher	三田史学会
Publication year	1922
Jtitle	史学 Vol.1, No.4 (1922. 8) ,p.116(594)- 116(594)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	餘白録
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19220800-0116

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

基督誕生のに就て

耶蘇基督の誕生の年は羅馬建都紀元の七五三年であると云ふ説が Dionysius Exiguus の誤算に基いてると云ふとは耶蘇會士の Euseb の論證したやうに否定し難いものである。馬太傳の第二章の一節並に路加傳第一章の五節に基督の誕生をヘロデ大王の晩年のことであると傳へ而して大王は西紀前の四年の四月に歿してゐるので是はかくあらねばならぬ。路加傳の第二章の二節に従へば基督は P. Sulpicius Quirinus (希臘名 Kyrenios) が戶籍調査をした年に生れた筈である。この人のことに就ては正確のことは判然せぬがその在職は西紀前三年から西紀二年迄の間であると推測し得らるるのみである。そのシリアの知事となつたのは西紀六年から十一年迄であつた。然し多分後世になつてから使徒行傳第五章三十七節の不評判な戶籍調査とキリヌスの名とを過て關聯せしめて説いたのであらう、この戶籍調査はヘロドの死後その王國を羅馬領に編入した後舉行せられたものと考へられたのである。耶蘇基督が西紀前七年又は六年に生れたと云ふ説は論據が薄弱である。之に反してリイスの説に對しては異論が無い。

(ウエエヘル・リイス第三卷から)